

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900082		
法人名	特定非営利活動法人ケアセンターいこい		
事業所名	高齢者グループホームいこいの華(A棟)		
所在地	岩手県一関市花泉町花泉字地平21-8		
自己評価作成日	平成26年10月6日	評価結果市町村受理日	平成27年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0390900082-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームはJR東北本線花泉駅より徒歩10分、県立花泉高校まで2分の位置にあります。ホームの行事や避難訓練などを通して、近隣の花泉高校や近隣の皆様と交流を図り、地域に根ざしたホームを目指しております。また、レクリエーションなどにより、身体機能の維持に努めると共に家庭的な生活を営み、自立した生活ができるように支援をして参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・庭や玄関に、花のプランターが飾られていて、明るく感じられる。事業所を訪問した際、笑顔で招き入れられ、ホールにいる職員も元氣よく挨拶され、事業所全体が明るい雰囲気を感じた。
- ・推進会議の委員や地元の高校生の協力を得て、地域との交流が図られている。
- ・地域への協力とし、食材の購入は近所のスーパーを利用している。また、ガソリンは地区のガソリンスタンドで入れる等、工夫されている。
- ・夜勤専門員を配置し、職員の夜間時間帯の勤務を軽減している。
- ・職員の資格取得を勧めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をホーム内に掲示している。住み慣れた地域との交流や自立支援等について掲げている。職員は、入居者にはできることをして頂き、自立した生活ができるように支援をしている。	朝のミーティングでは「社是」を唱和している。理念は、ホールや事務室に掲示している。職員会議で、指導助言している。朝のミーティングでも、身近な行為を通して感じてもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練・ホームでの行事を通じて花泉高校の生徒さんや地域の方との交流をしている。今後も地域の方や高校生がホームに来て交流ができる機会を作っていきたい。	区長にお願いし、避難訓練の予定を回覧をしている。訓練には地域の方が10人ほど参加している。また、ホームの夏祭りには、花泉高校生や先生、子どもを含め近所の方々60人ほどが参加し、流しソーメン、焼き肉等で盛会であった。多数の地域住民の協力参加を得て、楽しい交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、花泉地域は地域での認知症の理解が低いとの問題点が挙げられている。包括支援センター等と協力しながら、認知症に対する理解が得られるような研修会等の企画を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果は運営推進会議や入居の際に説明をしている。運営推進会議の中で委員の方からご意見を頂いている。委員の方から環境整備等についてご意見を頂き、改善している。	委員の区長を通じ、ホームの広報を回覧し、行事には住民の参加が得られている。地域の道路の環境整備行事に、ホームからの参加協力を依頼されるなど、有効な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員が運営推進会議に出席していただき、ホームの入居者等の状況等を報告している。	市町村からは、包括支援センターの職員(一部事務組合)が運営推進会議に出席している。ホームの入居者等の状況等を報告している。また、支所に出向いて行って相談するなど、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議やお盆やお正月前の終礼式にて勉強会を行っている。職員は身体拘束の他にスピーチロックやドラッグロックのことを理解しており、できる限り薬や言葉で拘束しないケアを行っている。	これまで身体拘束を実施したことは無い。睡眠導入剤が必要と思われる利用者には、薬剤を使用せず、庭や事業所内を歩き運動するようにし、見守りを強化して対応している。言葉での拘束についても、研修を通じて注意し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて勉強会をしている。認知症の理解不足も虐待につながる為、認知症の理解を深めるための研修会を行っている。また、外部研修にも積極的に参加している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護グループホームいこいの華(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している入居者はいないが、今後該当する入居者が出てくることもあるので、内部研修や外部研修にて理解を深める努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と契約書について説明をしている。ご家族と対話をする機会を多く持ち、不明な点や不安な点が残らないように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内に第三者委員会を設置している。法人内の事業所で苦情やご意見を集め、第三者委員会の中で話し合っている。話し合った内容は議事録として書く事業所で回覧をしている。	法人内の事業所の苦情や意見を集め、第三者委員会の中で話し合い、議事録を各事業所で回覧している。意見として出た「靴を履くのには玄関に椅子が欲しい」という意見には、椅子を置き対応した。言葉遣いについては、研修をする等の対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回事業総本部にてリーダー会議を開催しており、理事長や幹部職員管理者等が出席し、各事業所の課題や問題点について話し合いをしている。	月1回の事業総本部でのリーダー会議で、理事長や幹部職員、管理者等が出席し、各事業所の課題や問題点について話し合いをしている。ホームからは、トイレで便座に安定して座っていただけるよう、肘掛を設置して欲しいと希望し、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で資格取得に向けた支援をしている。資格取得後は本人の意向を踏まえながら資格を生かせる業務に従事できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加ができる体制を取っている。職員は研修に参加をし、新たな知識を得ることにより、意欲を持って業務に当たることができている。研修後は復命書を書いていただき、職員全員に職員会議等で報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム定例会など外部の研修会に積極的に参加をし、同業者との交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状況調査をする段階で、ご本人の様子をお伺いしている。必要に応じて現在使っているサービスの職員さんや担当ケアマネージャーより情報を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階より、ご家族の困っている点などを傾聴するように努めている。入居時にはグループホームについて理解していただくように説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に入院したときの対応や重度化してグループホームで生活ができなくなった場合について説明をしている。グループホームで生活ができなくなった場合に次の住処が見つかるまで支援することを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の一方的な介護にならないように、入居者様ができる茶碗拭きや洗濯たたみ、お掃除を手伝っていただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限り通院等はご家族にお願いし、通院等を行なっていただくことにより、家族との交流ができるように対応をしている。また、ご家族もホームの行事に参加することで、交流が図れる機会を提供していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際にご家族になじみの人や場所をお伺いしている。ご家族の協力により、面会に来ていただいたり、外出に出かけたりしている。	以前の近所の方が面会に来ている。また、通院時、家族と外食をしたり、月1回のバスハイクの時等に外食する等、外食を楽しみにしている。食材の買い出しに、職員と一緒に行くスーパーも、馴染みの場になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化などを理解し、よりよい関係を築けるように支援をしている。入居者同士の会話等の観察を行い、利用者間のトラブル防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に退所した方がおり、行政と包括支援センターと協力をし、家庭訪問を行なっていただいている。家庭での生活に不自由がないかなどを確認していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に、本人やご家族に生活の意向を伺う他に入居者の日常の会話に耳を傾け、できる限り本人が満足出来る生活が行えるよう支援をしている。	利用者とは、日常の会話で意向を聞いている。過去のことはよく覚えていて、床屋をしていた、百姓をしていたと話すことがある。土いじりが好きで、畑での栽培、収穫を楽しみにしていたが、身体機能が低下し、プランター栽培に替えた。家族からは、面会時等に意向を聞いている。面会が少ない家族には、定期的に電話して意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅のケアマネージャーより入居者の状況についての情報を頂いている。必要に応じてサービス事業所等からの情報を頂くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に生活の様子を記録している。ケアプラン更新時にケアカンファレンスを行い、本人のできること、できないことを確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所した際に、現在の状況を説明している。その時、ご家族に意見や要望を伺っている。伺った内容を基に職員間で話し合いをし、介護計画を作成している。日常生活の中の言葉から立案にいかすこともある。	定期的に計画の見直しを行っている。また、状態に変化があった場合は、職員と話し合い、変更している。家族には、ケアマネージャーから説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気づいた点は介護記録に記入をしている。職員間の情報共有として職員の連絡帳を活用している。連絡帳に印を押すことにより、情報の漏れを防止している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人で、デイサービスや有料老人ホームを運営している。経済的な理由等で入居の継続が難しくなった場合、ニーズにあった施設に入居ができるように支援をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護グループホームいこいの華(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある花泉高校との交流を行っており、ホームの行事に参加していただいている。ボランティアの方や花泉高校の生徒さんと顔なじみになれるよう、ホームに来る機会を提供すると共に、ご家族の面会が増えるような工夫を検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームには協力医院があるが、入居後の通院は在宅での主治医を継続している。通院は可能な限りご家族にお願いをしているが、どうしても難しい場合にはホームでも対応している。通院時にはご家族に必ずバイタルや日常生活の様子等の情報提供をしている。	かかりつけ医は、入居後も継続している。通院は家族が行い、都合が悪い時は職員が支援しているが、徐々に支援が増えてきている。通院時は、バイタル、体調等の生活状況を情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が1名勤務している。ケアをしていて不安な点や気づいた点があれば、看護師に相談をしている。必要に応じて通院の検討も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、ホームからサマリーを病院に提出している。できる限り入院中の支援はご家族にお願いをしているが、困難であれば、入院中でも病院に必要な物品を届ける支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で重度化に対する方針を説明している。重度化により、グループホームで対応が困難になってきた場合には、病院や他福祉施設、老健施設との連携を図ることになっている。	契約時に、重度化に対する方針を説明している。ターミナルの方は、主治医の指導を得ながら対応している。重度化により、ホームで対応が困難になってきた場合には、病院や他の福祉施設、老健施設との連携を図ることになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム協会主催の救命講習など外部研修には積極的に参加をしている。朝、夕のミーティングでは、予測される緊急事態に看護師を中心に話し合いを行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	区長や自主防災の方々等地域住民の皆さんのご協力により避難訓練を年2回実施している。災害時の避難場所については、運営推進会議等で確認をしている。	A・B棟の夜勤者2名で、夜間の避難訓練を実施した。職員は、暗い中での避難誘導は困難なことを実感した。また、消防署立会の訓練では、地域の方10名ほどが参加し、外の手伝いをしている。地域では、ホームの避難訓練を、地域の自主防災活動の一環として対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時には個人情報に関する同意書を頂いている。入居者個々の力に合わせた声掛けをするように心がけている。	契約時に、個人情報に関する同意書を頂いている。職員は、利用者に丁寧に声掛けをしている。また、利用者が、にこにこ笑いながら「トイレに言って来るから」と、隣りの利用者に話している様子を拝見し、微笑ましく感じた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に応じて、買い物と一緒にに行ける方にはスーパーで食べたいおやつなどを選んで頂いている。日常の生活の中でも入居者の意向を聞きながら支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位の生活をしていただいている。本人の気が向かないことは無理に行なっていただけない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように、能力に合わせて支援をしている。できる入居者には本人が着たい服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後のお膳は能力に応じて自分で片付けて頂くようお願いしている。食事後の茶碗拭き等も入居者をお願いをしている。	食事は、職員が調理している。また、献立も職員がたてており、本部の管理栄養士の指導を得ている。地域へ還元したいという事で、食材は地元の商店から購入している。利用者は、食材の買い物や、お膳の片付け、茶碗拭き等職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は立てているが、本人が苦手な食材があれば代用品をお出しして少しでも多く食べられるように支援をしている。便秘予防のためにも、食事時には水分補給の声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは欠かさず行なっている。口腔ケアの道具もその方に合ったものを使用している。また、口腔ケアの研修会にも積極的に参加をし、実践に生かしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護グループホームいこいの華(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を通して、入居者個々の排泄パターンを把握している。また、入居者の行動や表情等で察知し、トイレ誘導を行い、できる限りオムツを使わないケアを心がけている。	自立している方もいる。排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。排泄時は、ウォシュレットで清潔にしている。また、便秘にならないよう注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳やヨーグルトを提供し、便秘の防止に努めている。乳製品が苦手な方には野菜ジュースなどで代用している。また、主治医に排便の状況を報告し、必要な方には便秘薬を処方して頂き、運動不足にならないように、散歩等も運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り入居者の希望に沿って入浴を行い体調不良等により、入浴ができなかった時には日を改めて入浴をして頂いている。	入浴日を決めている。体調不良で入浴できない時は、日を改めたりなどして、週2回は入浴出来ている。失禁等で汚れてしまった場合は、シャワー浴をしている。入浴日は、異性介助に配慮した職員体制に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできる限り、レクリエーションに参加をしていただくなどして夜間安眠ができるように支援をしている。体調不良などの時には、居室で休んでいただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院後、薬が処方されたときには全員で薬の説明書に目を通して確認している。また、朝、夕のミーティングで確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時には必ず生活歴の確認をしている。できる限り生活歴に合わせて生活をしていただいている。また、入居後、新たにできることを見つけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のドライブにてふるさと訪問などを行っている。ご家族の協力が得られる方には、なじみのパーマ屋さんなどに外出する方もいる。	月1回、A・B棟合同のドライブ行事(ボタン園見学・ハスの花見学)がある。散歩の声掛けをして、2~3人で散歩に出かけている。食材の買い出しも、外に出かける機会として、楽しんでいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護グループホームいこいの華(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望により、一緒に買い物に出かけたりしている。自分のお小遣いの範囲内で買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節感を味わっていただくため、年賀状はご家族に出している。今後は定期的到手紙などを出す機会を提供し、ご家族との交流を積極的に行っていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に折り紙等で作った季節の花を飾るなどして季節の雰囲気を出し、入居者に季節感を味わっていただいている。	庭から玄関にかけて、プランターに季節の花が咲いている。居間は床暖房で、エアコン、加湿器を使用し適切な環境を整えている。壁には可愛いサンタクロース等クリスマス仕様の飾りつけをしている。利用者は、職員と一緒に、手すりを磨いたり、床のモップ掛けを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはレクリエーション等の活動に参加をいただいているが、本人の希望により居室で過ごしたいという方には無理に参加をさせない。本人の希望に沿って生活をして頂き、ユニットに関係なく、気の合う入居者同士で会話ができるように配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人が使いなれたものを持ってきていただいている。特に食事時の茶碗や箸、湯飲みは自宅で生活していたときのものと同じものを使うようにしている。	ベッド、クローゼット、丸型小テーブル・椅子、衣装ケースが設置されている。また、エアコン・加湿器で、室内環境を整えている。テレビを持参している方もいる。位牌を持参されている方は、他の方の目に触れないように押し入れに飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族との会話やケアカンファレンス、朝、夕のミーティングを通して、入居者のできることを把握するように努めて生活をして頂き、不都合な点があるときは、その都度改善し、入居者が安全に生活ができるように配慮をしている。		